

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	607A SPECIAL EDITION	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.460	△RG	0.041	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：607A SE**

フレアーの幅  インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離  インチ

4 インチ

番

研磨剤

**比較対照ボール：715A**

フレアーの幅  インチ

表面加工

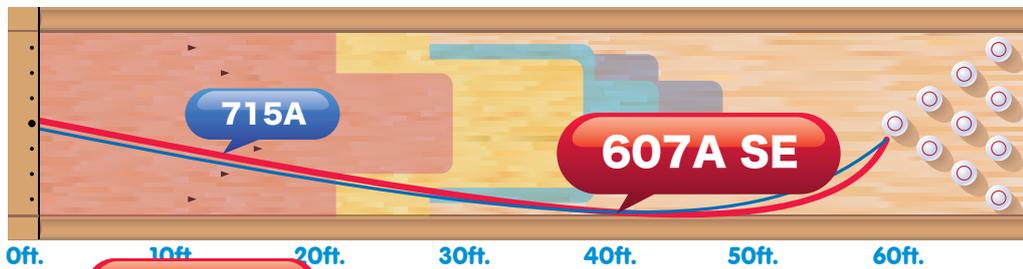
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離  インチ

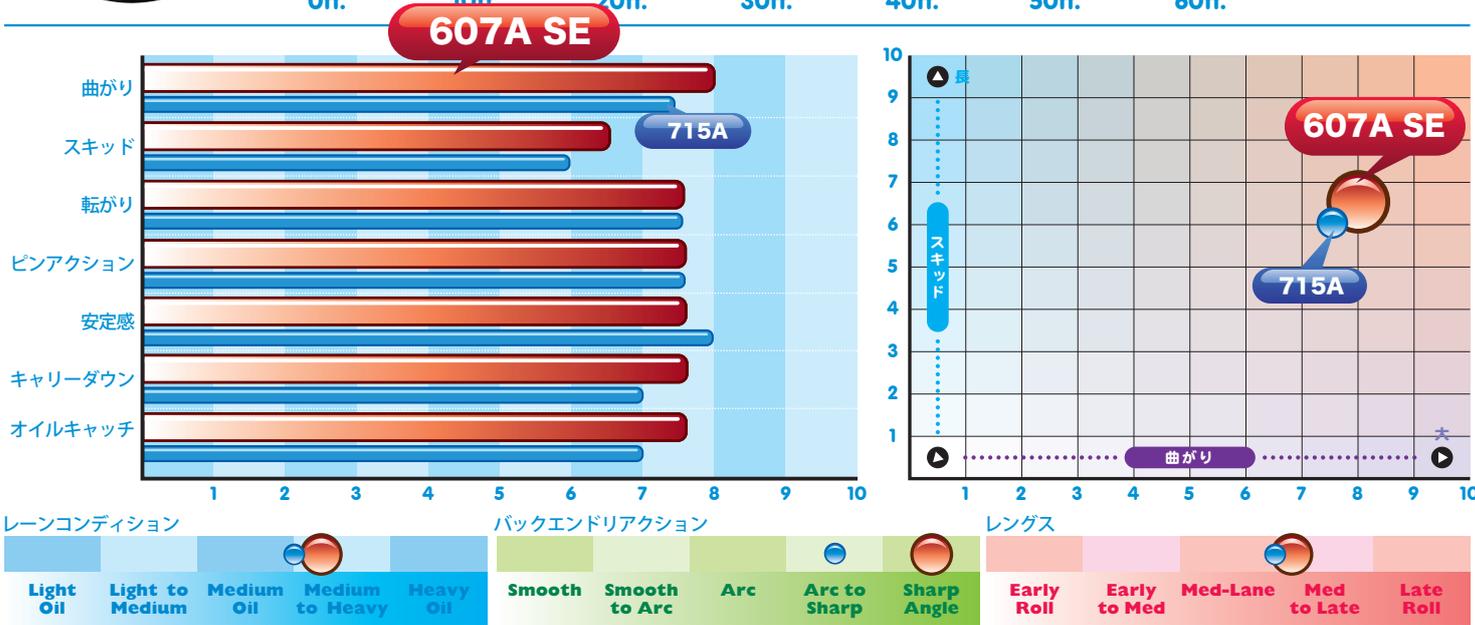
4 インチ

番

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



**ボールの評価**

”6”で使用できるカバーストックの強さを凌駕するほどの先での切れ幅。その切れ幅は今まで発売されたどのナンバー表記の”A”よりも最大を誇ります。トラック社開発スタッフから明かされた607A SEの”SE”は、6シリーズは1年に一度の発売予定であり、TRACK社最大の”暴れるぐらいの切れ幅”を実現させる事。それが”SPECIAL EDITION”というネーミングの由来でもあり、この607Aに課せられた使命でもあります。

去る5月26日(金)～6月3日(土)まで行われた全国縦断ダイナミックツアー2010でマイケルフェーガンによって607Aのデモ投球も行われました。全国8会場で動員した約400人の観客は、その鋭い切れ幅に魅了されたことでしょう。

このボールの最大の特徴は、冒頭からの暴れるぐらいの鋭い切れ幅。戻り感の強さからかかなり出し戻しのラインを使えるイメージがあります。しかし”ジャジャ馬”のような切れ幅を感じますので、#2000や#4000アブラロンで表面の光沢を少し消すと、性能を損わずに扱い易さは増すことでしょう。

ダイナミックツアー中にTRACKボールの魅力を感じたマイケル・フェーガンは、ツアー中にTRACK社と正式に契約する事にしたようです。そのフェーガンの一番のお気に入りボールがこのボールで、「レイアウト・表面加工を含め2～3個持つ事で、あらゆる対応が可能」、「スペシャルな性能だからこそ、私がそう使うように日本の皆さんもそうするべきだ」と。私自身これだけ鋭い動きができる性能だと、表面加工を変えたり、色々なレイアウトでそれぞれのシーンに合わせ使いたくなります。

ミッドプライスであるが故に同じボールを設定に合わせ使いこなすのも一つの手段なのかもしれません。

**特記事項**

**ミッドプライスで価格設定を大幅に超える性能は切れ幅、暴れ幅最大！**  
**”SE”(SPECIAL EDITION)のスペシャルな性能を是非その手でお確かめください。**